

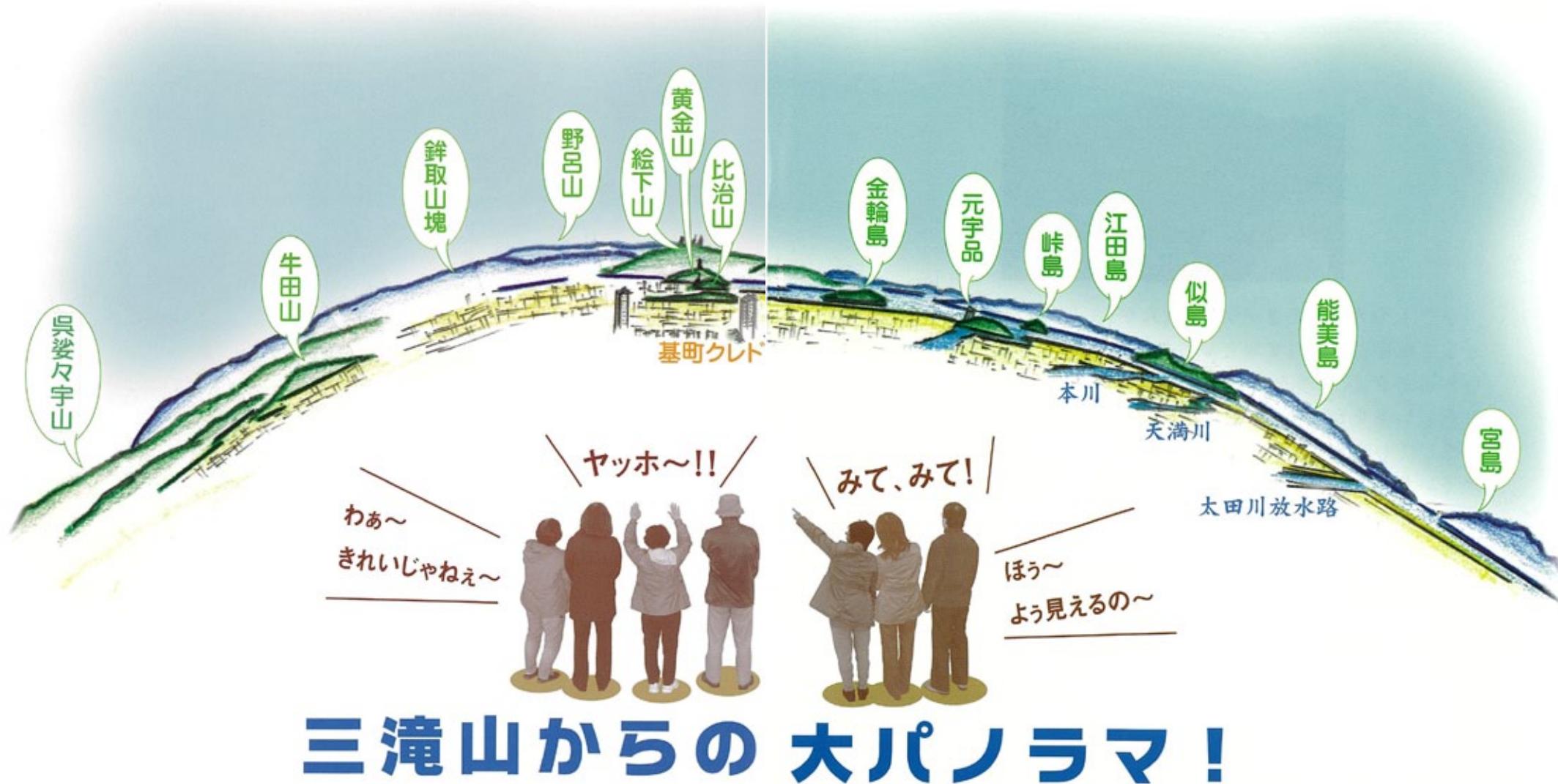


三滝山ガイドブック
(宗箇山)

みたきやま

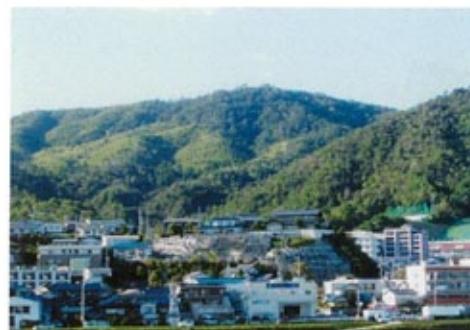
まんぞくするけん
もりじやけん
てみんさい
のじいけん
てみんさい





三滝山からの 大パノラマ！





今では、なかなか想像がつきませんが、古くは豊かな自然の宝庫として松茸や水晶の産地と知られた三滝山。このガイドブックを作るために、四季を通じて三滝山に登るたびに、植物や樹木の新しい発見があり、驚きの連続でした。その感動を少しでも共感していただき、みなさんに三滝山の素晴らしさを見つけていただきたいと思います。

子どもから大人まで、三滝山のさまざまな自然に興味や関心をもっていただけるように、多くの写真を使い、身近な話題を取り入れ、楽しい本にしようと進めてきました。

- この本の中では、以下のようなことを考えながら作りました。
- ① 一般的に知られている“宗箇山”ではなく、昔から地域の方々に親しまれてきている“三滝山”的名称を使いました。
 - ② 頂上までのコースについては、里山なので登山口も何か所かあります。比較的わかりやすく登りやすいコースを紹介しました。
 - ③ 頂上までの所要時間については、日頃ハイキングを楽しんでいる中高年の方の時間を基準として表しました。

身近な里山・三滝山の植物、野鳥などの自然を楽しみながら、みなさんのハイキングがより一層楽しくなるためにこの本がお役に立てばうれしいです。

- P.3 | 三滝の由来
- P.4 | 三滝山/宗箇松
- P.5 | 三滝山のはなし
- P.6 | 水晶谷/松根油採取跡

- P.7 | アプローチとコース
- P.9 | コース案内
Aコース/Bコース/
少年自然の家コース
- P.15 | 樹木ウォッチング
Aコース/Bコース/
少年自然の家

- P.21 | 樹木の四季
春のたのしみ
春を彩るツツジたち
夏のたのしみ
秋のたのしみ
秋を彩る葉っぱたち
秋の木の実たち、わかりますか
冬のたのしみ/木肌・葉痕・冬芽

- P.35 | 優しくかれんな草花
- P.37 | 三滝のイチゴたち
- P.39 | ツルの仲間
- P.41 | 不思議だね、面白いネ
ティカカズラ/
赤い実/カクレミノ
- P.43 | 似てるね!!
- P.45 | ドングリの仲間
- P.47 | おおきな樹木たち
- P.48 | めずらしい形の樹木たち
- P.49 | 三滝山のいきもの
イノシシ/小動物/
マムシ/昆虫/
幼虫のすみか
- P.53 | 小鳥たちのさえずり

山歩きのマナー
三滝山周辺の縦走コース
三滝山の植物一覧



三滝の由来

山の麓に雌滝、雄滝及び駒が滝の
3つの滝があったことにより、
三滝の名が生まれました。(昭和8年)



三滝山

三滝山のこと、知っていますか？

標高356m

三滝山は、新庄山、植松山、宗箇山という四つの名称を持っている山です。当地は、その昔、沼田郡新庄村という地名であり、山も新庄山とも呼ばれていました。この山頂に、赤松が植えられたことから、植松山と呼ばれるようになり、さらに戦後になって、宗箇山と呼ばれるようになりました。また、三滝山(新庄山、植松山、宗箇山)と呼ばれる頂上の他にも、大原山、黒谷山、高峠山、丸小山と呼ばれる四つの小さな峰があります。現在、これら五つの峰は三滝本町から山手町にまたがっていますが、三滝山は今の町名も三滝山のままです。

宗箇松

実は由緒あるんです。



江戸時代(1619年)紀州和歌山藩主
から芸州広島藩主となった浅野長晟に
伴って赴任した家老で茶人の上田重安
(号を宗箇)が、広島城近くの上屋敷に
茶室(和風堂)を造りました。

三滝山の頂に、高さ12mの赤松を植え、
和風堂より眺めたといわれ、人々に「宗箇
松」と呼ばれ親しまれています。

この由緒ある初代宗箇松は、明治
時代に落雷により枯死しました。

二代目の松は戦時中、爆撃目標となる
のを避けるため軍により伐採され、三代目
はマツクイムシの被害により無惨にも枯死
しました。そして四代目は平成10年11月
29日マツクイムシに強いスーパー松を植栽し、地元諸団体によって復元されました。

三滝山のはなし

松茸のこと、知つてました？



当地が新庄村といわれた頃より、特産として松茸と筍は、香りよく、味はこのほかよく、新庄松茸、新庄筍として市場では人気を独占し、価格も他の産地より高く取引きされていたといいます。

三滝山でも春は筍、秋は松茸を相当多く生産していました。特に昭和40年頃までは、松茸の時期になると三滝山は、松茸狩のお客で賑わっていました。今は山の大半が竹林になりつつあります。その竹林もイノシシが筍を食べるため掘った穴で荒れています。山の状態から、これ以上竹林が拡がらないことを願っています。

水晶谷

昔はロマンがありました。

この山には以前、水晶が採れる所があり、水晶谷とも言わされていました。水晶を探す人が入り、山を掘り小さな横穴ができました。それが崩れてはまた掘りで、山主は大変迷惑しました。その後、水晶が出なくなり、今では、その横穴も崩れ、笹、雑木、倒木などで入っていくこともできなくなっています。またこの谷は昔から、マムシの多い場所です。

松根油採取跡

身近な戦争の話です。

戦時中、軍の要望で松の大木の幹に鋸切りで傷をつけ、そこから出てくる松ヤニを採取して軍部に納入していました。その傷跡が今も残っています。

その松ヤニを精製し、飛行機の燃料にしたともいわれます。



アプローチとコース



三滝駅から線路沿いに横川方面に少し戻り、山手に進むと誓願寺につきあたる。三滝寺へは右の道を行く。すぐ公園があり、左へ行くと三滝観音バス停の先に道しるべのお地蔵さんが立っている。三滝寺はつきあたりである。

少年自然の家へは、誓願寺から左手の道を標識に従って進む。また、三滝寺の手前を左に曲がると墓園を抜けて行くこともできる。駐車場との連絡道として使うとよい。

横川駅からは北口の改札を出て、左へ高架に沿って進むと太田川放水路の土手につきあたる。川土手を歩くと、対岸に三滝の山が連なり、行く手正面には遠く阿武山が構えている。気持ちの良いアプローチだ。三滝橋を渡ると、三滝駅からの道に合流する。

駐車場

少年自然の家・グリーンスポーツセンター及び竜王公園の駐車場
(三滝寺の駐車場は参拝者専用のため、山歩きの方は
利用できませんのでご注意ください。)

閉門時間

三滝寺の山門は17時に閉まります。(Aコース、Bコース)
少年自然の家のゲートは17時に閉まります。

少年自然の家 休所日

毎週月曜日、祝日の翌日、8/6、12/29～1/3 TEL:082-238-6301
(所内は通りぬけできません。駐車場も利用できません。)

交通機関

広島バス 広島駅－八丁堀－紙屋町－十日市－横川三丁目－三滝駅入口－三滝観音
JR 可部線三滝駅、山陽本線横川駅

所要時間(徒歩)

JR横川駅北口 - JR三滝駅 - 誓願寺 - 三滝観音バス停 - 三滝寺
15分 5分 3分 6分 10分
→ 三滝少年自然の家
15分



Aコース 境内を通って、ゆっくり、なだらかに登るコース

Bコース 傾斜は急だけど、距離は短く景色のよいコース

少年自然の家コース 高峰山を通り、長いけど静かな尾根歩きのコース

(——連絡道)

Aコース

1900
m

ゆっくり、なだらかに
登るコースです。

畠峰へ



畠峰への分岐点



鉄塔広場から三滝山を望む

高峰山
(少年自然の家)

山本へ
山頂

Bコースへ
→

登山口～本堂

5分

本堂～高峰山分岐

25分

高峰山分岐～山頂

30分

いつも新しい
尾根歩きです!

本堂を回りこみ、階段を上がったところが登山口だ。以前は台風で転がり落ちてきた大きな岩が道の真ん中に立ちはだかって山道との境になっていたが、今はすっかり片付けられている。小さな流れに沿って石に刻んだ階段を上がる。増水している時は滑り易いので気を付けよう。堰堤の先、道は杉林へと入っていくが、梅雨時には冠水していることがあり、その場合は左手にある巻き道を注意して使おう。少し歩くと杉の根元に山頂方向を示す看板がある。見落とさないで左のしっかりした道を行くこと。沢沿いの道の行く手は竹林の谷で、この山腹につけられた急な道を登る。登りきった所にある標識に従って左に曲がるが、この辺りで、水の音が響いてくることがある。水量の多い時だけ現れる滝の音である。通称三郎岩を過ぎると、まもなく稜線にでる。なだらかな上りが竹林の中に続き、突然鉄塔のある広場にでる。晩秋から春先にかけてはホオノキの冬芽の向こうに三滝山の尾根が見渡せる。ここからは、いろいろな樹木の花や実を楽しめる平坦な道を行く(P15)。尾根にてたところで、高峰山(少年自然の家)からの道と合流する。



杉林の中の道標



登山口周辺

リョウブの林をすぎ、道の真中にアベマキが立っているあたりは、秋にはクヌギやアベマキ、コナラのドングリがたくさん落ちている。緩やかな上りから、さらにひとがんばり登った先、谷側にヤマザクラの大木が見える。アラカシの林に入ると再び上りが強くなり、やがて畠峰への分岐に着く。この先は竹林の縁を通る平坦な道である。ゆるい上り下りを繰り返しながら明るい稜線を行くと頂上の広場にでる。

スタート